



益城町 未来トーク

町では10月8日、町保健福祉センターで、若者たちによるトークイベント「益城町未来トーク」を開催しました。

益城町の未来に関心のある15歳からおおむね30歳までの若者たちが集まり、活発な議論を交わしました。参加者数は町外を含め95人で、募集人数の50人を大きく上回りました。また、特別ゲストを兼ねて町内在住のデザイナーアート作家Shoona（ショー・マーニ）次ページで紹介の二人も参加しました。

今回、町が「益城町未来トーク」を開催したのは、12月策定を目標に進めている益城町復興計画に関する住民意見交換会の場に、町の将来を担う若者の姿があまり見られなかったためです。そこには何としても若い人たちの意見を計画に取り入れようという町の熱意が込められています。熊本大学政策創造研究教育センターの田中尚人准教授の司会により

グループワーク形式で進められたディスカッション。参加者は14のグループに分かれ、画用紙やマーカー、模造紙などを駆使して議論を深めました。和やかなムードながら課題に向かう姿勢は真剣そのもので、町が現在抱えている問題点や、10年後の町の目標、そして、その目標を実現するための方法などについてアイデアを出し合いました。

今回のイベントの舞台裏には、たくさんの人たちが関わっています。「学校の先生に紹介され、益城町のこれからの興味を持った」という町内在住の女子高校生たちも、そのメンバーとして2週間前からイベントの内容と当日の流れなどについて、職員と綿密な打ち合わせを重ねてきました。

若い力が結集し、第1回目の「益城町未来トーク」は大成功に終わりました。ただし、今回挙げられた「10年後の町の理想像(目標)」の実現こそが最も重要です。そのため町としては、若い人たちが住民、企業、学校、町などと協働し、一緒になって、復興に向けたまちづくりに関わってほしいと考えており、次なる企画を検討しています。

町づくりなんて難しいと敬遠していた若い人たちも、より魅力的で活力にあふれた益城町をつくっていくためにはどうすればいいか、みんなと一緒に真剣に考えてみませんか？